

株 主 各 位

東京都新宿区西新宿四丁目15番7号
アートsparkホールディングス株式会社
代表取締役社長 川 端 一 生

第3回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第3回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 開催日時 平成27年3月27日（金曜日）午前10時
2. 開催場所 東京都新宿区西新宿一丁目9番1号
明治安田生命新宿ビルB1F 新宿明治安田生命ホール
（末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。）
3. 会議の目的事項
報告事項
 1. 第3期（平成26年1月1日から平成26年12月31日まで）
事業報告及び連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の
連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第3期（平成26年1月1日から平成26年12月31日まで）
計算書類報告の件

以 上

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の株主総会出席票を会場受付へご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎当日の受付開始は、午前9時30分を予定しております。

◎添付書類に修正が生じた場合にはインターネット上の当社Webサイト（<http://www.artspark.co.jp/>）に掲載させていただきます。

(添付書類)

事業報告

(平成26年1月1日から
平成26年12月31日まで)

I. 企業集団の現況に関する事項

1. 事業の経過及びその成果

事業の概況

携帯端末市場の中心がスマートフォンへと急速に移行していく中で、当社グループは積極的に事業構造改革を進めており、コスト削減と利益率の向上を目指す一方で、戦略投資事業における投資の成果であるクリエイターサポート事業の強化及びUI/UX（ユーアイ/ユーエックス）事業の市場拡大を進めております。

当連結会計年度においては、各事業セグメントにおいて、継続的に販売活動の強化を推進するとともに、前連結会計年度に実施した事業構造改革の成果による人件費の圧縮や減価償却費の軽減が、売上原価及び販売管理費の圧縮に貢献しております。これらの施策の結果、クリエイターサポート事業が黒字化いたしました。また、UI/UX事業における関西地域の事業基盤の拡大を目的とした株式会社エイチアイ関西を孫会社化、「デザインエンジニアリング」の推進強化を目的とした株式会社U'eyes Designを孫会社化等、M&Aを活用した積極的な事業拡大施策を展開した結果、UI/UX事業の赤字幅が大幅に縮小しております。

その結果、当社グループの当連結会計年度の売上高は3,826,206千円（前年同期比3.8%増）、営業利益は99,713千円（前連結会計年度は69,093千円の営業損失）となりました。

また、経常損益につきましては、支払利息11,280千円を計上したこと等により、93,621千円の経常利益（前年同期は68,222千円の経常損失）となりました。純損益につきましては、株式会社エイチアイ関西の取得による負ののれん発生益13,849千円の計上や投資有価証券評価損27,903千円の計上等により、59,958千円の当期純利益（前年同期比40.1%増）となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

<コンテンツソリューション事業>

コンテンツソリューション事業の中心である携帯電話市場におきましては、平成26年12月末で国内携帯電話加入契約数が1億4,505万台（前年比6.2%増）となっております。（社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」より）また、平成26年12月末における国内のスマートフォン契約数の占める割合は、フィーチャーフォンとスマートフォンの合計契約件数の52.3%と過半数を超える等、スマートフォンの普及が拡大しております。（株式会社MM総研発表より）

このような経営環境の中、電子書籍ビューア「BS Reader for Browser」がソフトバンクモバイル株式会社の提供するスマートフォン向け総合電子書籍サービス「スマートブックストア」に採用、「LINEマンガ」PC向けウェブブラウザ版に当社子会社株式会社セルシスと株式会社メディアドゥが共同で提供するブラウザビューアソリューションが採用され、また、同ビューアをiPhone・iPad向け最新OSの「iOS8」に対応させる等、総合電子書籍ビューア「BS Reader」の拡充に努めてまいりました。なお、「BS Reader for Browser」が利用されている電子書籍配信サービス数は、平成26年12月末では920サービス超となっております。

以上の結果、コンテンツソリューション事業の売上高は、1,117,640千円（前年同期比12.9%減）となり、営業利益は22,262千円（前年同期比81.3%減）となりました。

<クリエイターサポート事業>

当連結会計年度では、ペイントソフトウェア「CLIP STUDIO PAINT」のフランス語版、スペイン語版の販売を開始し、パリで開催のJapan Expoに出展した他、KADOKAWA Contents Academy株式会社の海外コンテンツスクール事業においてペイントソフトウェア「CLIP STUDIO PAINT EX」が教材として採用される等、海外市場の開拓を推進しております。また、スマートフォン向けソーシャルお絵かきアプリ「kakooyo!」を公開、指だけで快適に描ける描画機能を持ち、複数人でキャンバスを共有して描くことをはじめ、ライブ配信やチャットコミュニケーションが可能となっております。スマートフォン、タブレットの普及に伴い、クリエイターの増加と作品発表の場の拡充を目指し、創作のすそ野を広げる活動を推進してまいります。

なお、クリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」においては、平成26年12月末時点の登録者数は47万人となっております。

以上の結果、売上高は751,159千円（前年同期比17.9%増）、営業利益は10,377千円（前年同期は93,549千円の営業損失）となりました。

<UI/UX事業>

当連結会計年度では、「デザインエンジニアリング」をテーマに、自動車関連分野を中心として、組込みUIノウハウを集約した次世代UIオーサリングツールである「exbeans UI Conductor（エックスビーンズ ユーアイ コンダクター）」の販売に注力すると共に、受託開発案件の受注活動を強化してまいりました。その結果顧客基盤の拡大が進み、受注状況は堅調に推移しております。また、既存製品である「MascotCapsule UI Framework」の車載機向け販売が好調であり、ロイヤリティ収入が増加いたしました。費用面では開発プロセスの管理強化等の施策によって外注費を中心とした製造原価の削減を進めております。

また、今後の事業拡大に向けて、関西方面での顧客対応を強化する目的で株式会社エイチアイ関西を平成26年2月に孫会社化し、「デザインエンジニアリング」

の活動を強化しその推進を加速させる目的で、株式会社U'eyes Designを平成26年4月に孫会社化いたしました。

以上の結果、売上高は1,874,790千円（前年同期比25.9%増）、営業損益は8,402千円の営業損失（前年同期は188,315千円の営業損失）となり赤字幅は大幅に縮小いたしました。

＜アプリケーション事業＞

アプリケーション事業につきましては、前連結会計年度より事業の縮小を進めております。新規の事業活動は行っておらず、継続中のサービス運用業務の手数料収入を収益計上しております。

以上の結果、売上高は126,624千円（前年同期比57.7%減）、営業利益は42,102千円（前年同期比50.0%増）となりました。

事業の種類別セグメントの名称	売上高 (千円)	構成比 (%)
コンテンツソリューション事業	1,117,640	29.2
クリエイターサポート事業	751,159	19.6
U I / U X 事業	1,874,790	49.0
アプリケーション事業	126,624	3.3
調整額	△44,009	△1.1
合計	3,826,206	100.0

(注) 調整額△44,009千円は、主に内部取引の消去によるものであります。

2. 資金調達の状況

当連結会計年度中において、当社グループでは、安定的な運転資金を確保するために金融機関から短期借入金426,000千円の調達を行っております。

3. 設備投資等の状況

当連結会計年度の設備投資の総額は、31,101千円となり、その主なものはPC等の工具器具備品によるものであります。

4. 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権の取得又は処分の状況

当社の連結子会社である株式会社エイチアイは、当連結会計年度において、株式会社エイチアイ関西及び株式会社U'eyes Designの株式を取得し、子会社としております。

5. 対処すべき課題

当社が対処すべき課題と対処の方針は次のとおりであります。

- ① グループ経営体制

当社グループは、中長期の経営目標を達成するための経営資源配分の選択と集中をグループ全体で円滑に運営するために、グループ経営体制の確立とガバナンス体制を強化する必要があります。そのために、当社取締役とグループ各社の取締役を中心とした「グループ戦略会議」を設け、経営と業務執行のガバナンスを強化してまいります。

② 投資の選択と集中の強化

当社グループの事業セグメントにおいて、新たな事業の柱の育成と成長を目指す「戦略投資事業」においては、投資から資金回収までの期間が長期となることから、投資の選択と集中をより強化していく必要があります。そのために、収益と投資や運営コストとの関連をより客観的にモニタリングするため、事業別の資金獲得能力を基準とした評価を行い、「グループ戦略会議」にて投資の選択と集中を実施してまいります。

③ グループ経営における経営の効率化

当社グループの事業セグメントにおいて、収益力強化事業及び間接部門を中心として、生産性・収益性の高いオペレーションを実現していく必要があります。そのために、組織の統廃合やオペレーションの見直し等による効率化を継続して推進してまいります。

また、グループ各社の製品開発部門の集約化を進めることによって、自社製品開発の効率化を図り収益性の改善を実現してまいります。

今後とも、株主の皆様のお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

6. 財産及び損益の状況の推移

区 分	期 別	第 1 期	第 2 期	第 3 期
		(平成24年12月期)	(平成25年12月期)	(当連結会計年度) (平成26年12月期)
売 上	高(千円)	2,633,289	3,685,419	3,826,206
経常利益又は経常損失(△)	(千円)	△690,045	△68,222	93,621
当期純利益又は当期純損失(△)	(千円)	△1,350,939	42,811	59,958
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)	(円)	△203.59	6.45	9.02
総 資 産	(千円)	4,024,940	3,650,704	3,969,974
純 資 産	(千円)	2,349,056	2,286,213	2,362,802
1株当たり純資産額	(円)	350.03	340.55	348.84

- (注) 1. 金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
 2. 当社は、第1期が最初の連結会計年度です。
 3. 第1期は、平成24年4月2日から平成24年12月31日までの9か月決算となっております。
 4. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は、期中平均発行済株式総数(自己株式を除く)に基づき算出しております。

7. 重要な親会社及び子会社の状況（平成26年12月31日現在）

①親会社の状況

該当事項はありません。

②重要な子会社の状況

会 社 名	資 本 金 (千円)	当社の議決権比率(%)	主 要 な 事 業 内 容
株式会社セルシス	100,000	100.0	コンテンツソリューション事業、クリエイターサポート事業
株式会社エイチアイ	350,000	100.0	ミドルウェアの企画・開発・ライセンス販売・サポート、コンテンツ及びサービスの企画・制作・運用
株式会社エイチアイ関西	100,000	91.7	移動体通信機器のソフトウェア開発受託事業
株式会社U'eyes Design	96,000	60.6	製品及びサービスのデザインの開発支援、組み込みシステム及びWebサイトのUX・ユーザビリティ調査・検証サービス、GUIのインタラクション制作支援

8. 主要な事業内容（平成26年12月31日現在）

事業部門	主要製品・事業内容
コンテンツソリューション事業	総合電子書籍ビューア「BS Reader」の提供・使用許諾、オーサリングソフトウェア「BS BookStudio」の開発及び販売、コンテンツ配信用データサーバー「ComicDC」の開発及び提供、コンテンツソリューションの提供。
クリエイターサポート事業	イラスト制作、マンガ制作、アニメ制作等のグラフィクスソフトウェアの企画・開発・販売、インターネットを通じたイラスト、マンガ、アニメ、小説を制作するクリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」の運営。
U I / U X 事業	ミドルウェアの企画・開発・ライセンス販売・サポート。
アプリケーション事業	ミドルウェア事業のノウハウを活かしたコンテンツやサービスの企画・制作・運用。

9. 主要な事業所（平成26年12月31日現在）

①当社

本 社	東京都新宿区西新宿四丁目15番7号
-----	-------------------

②主要な子会社

株式会社セルシス	本 社	東京都新宿区西新宿四丁目15番7号
株式会社エイチアイ	本 社	東京都目黒区東山一丁目4番4号
株式会社エイチアイ関西	本 社	兵庫県伊丹市西台一丁目7番14号
株式会社 U'eyes Design	本 社	神奈川県横浜市都筑区中川一丁目4番1号

10. 従業員の状況（平成26年12月31日現在）

①企業集団の従業員の状況

事業部門	従業員数
コンテンツソリューション事業	45 (3) 名
クリエイターサポート事業	39 (3) 名
U I / U X 事業	129 (9) 名
アプリケーション事業	- (-) 名
全 社 (共 通)	18 (-) 名
合 計	231 (15) 名

- (注) 1. 従業員数は就業人数であり、臨時雇用者数は当連結会計年度の平均人員を () 外数で記載しております。
 2. 全社 (共通) として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

②当社の従業員の状況

従業員数	16 (－) 名
------	----------

(注) 従業員数は、すべて当社の連結子会社である株式会社セルシス、株式会社エイチアイからの出向者であります。

11. 主要な借入先の状況 (平成26年12月31日現在)

借入先	借入残高 (千円)
株式会社三菱東京UFJ銀行	264,816
株式会社りそな銀行	256,302
株式会社みずほ銀行	150,870
株式会社三井住友銀行	59,972

II. 会社の株式に関する事項 (平成26年12月31日現在)

- 発行可能株式総数 25,000,000株
- 発行済株式の総数 6,645,490株 (自己株式1,885株を除く)
- 当事業年度末株主数 5,570名
- 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社川端本舗	294,000	4.42
三輪 洋照	250,000	3.76
川上 陽介	246,400	3.70
株式会社SBI証券	234,900	3.53
川端 一生	198,135	2.98
日本証券金融株式会社	113,000	1.70
ダイワボウ情報システム株式会社	105,000	1.58
東映アニメーション株式会社	101,700	1.53
協和青果株式会社	100,000	1.50
松井証券株式会社	87,500	1.31

(注) 持株比率は自己株式 (1,885株) を控除して計算しております。

Ⅲ. 会社の新株予約権等に関する事項

1. 当事業年度末日における当社役員が有する新株予約権の状況

名 称	第3回新株予約権	第4回新株予約権
発行決議年月日	平成17年10月21日 (注1)	平成18年7月28日 (注2)
保有人数及び新株予約権の数 取締役(社外取締役を除く) 社外取締役 監査役	2名 95個 — — — —	3名 132個 — — — —
目的となる株式の種類と数	普通株式28,500株 (新株予約権1個につき300株)	普通株式39,600株 (新株予約権1個につき300株)
各新株予約権の行使条件	①新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時において、当社若しくは当社の子会社の取締役、監査役又は従業員たる地位を保有していることとする。ただし、当社取締役会で認めた場合はこの限りではない。 ②新株予約権の質入れ、担保権の設定及び相続は認めないものとする。 ③その他の条件については、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。	①新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時において、当社若しくは当社の子会社の取締役、監査役又は従業員たる地位を保有していることとする。ただし、当社取締役会で認めた場合はこの限りではない。 ②新株予約権の質入れ、担保権の設定及び相続は認めないものとする。 ③その他の条件については、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。
新株予約権の払込金額	払込を要しない	払込を要しない
新株予約権の行使に際して出資される財産の価値	1個当たり160,200円 (1株当たり534円)	1個当たり240,000円 (1株当たり800円)
新株予約権の行使期間	平成24年4月2日から 平成27年2月15日まで	平成24年4月2日から 平成28年1月24日まで

- (注) 1. 平成24年4月2日の株式移転により当社の完全子会社となった㈱セルシスが発行した同社第3回新株予約権の新株予約権者に対し、その保有する新株予約権に代わるものとして、当該株式移転に係る株式移転計画に基づき平成24年4月2日に交付したものです。なお、発行決議年月日は、㈱セルシスの同社第3回新株予約権に係るものを表しています。
2. 平成24年4月2日の株式移転により当社の完全子会社となった㈱セルシスが発行した同社第4回新株予約権の新株予約権者に対し、その保有する新株予約権に代わるものとして、当該株式移転に係る株式移転計画に基づき平成24年4月2日に交付したものです。なお、発行決議年月日は、㈱セルシスの同社第4回新株予約権に係るものを表しています。

名 称	第 5 回新株予約権	第 6 回新株予約権
発 行 決 議 年 月 日	平成19年11月22日 (注 1)	平成22年11月12日 (注 2)
保有人数及び新株予約権の数 取締役（社外取締役を除く） 社 外 取 締 役 監 査 役	— — — — 1名 4個	2名 20個 — — — —
目的となる株式の種類と数	普通株式400株 (新株予約権 1 個につき100株)	普通株式2,000株 (新株予約権 1 個につき100株)
各新株予約権の行使条件	<p>①新株予約権の割当を受けた者が当社若しくは当社の子会社の取締役、監査役又は従業員の場合は、権利行使時において、当社若しくは当社の子会社の取締役、監査役又は従業員たる地位を保有していることとする。ただし、当社取締役会が認めた場合はこの限りではない。</p> <p>②新株予約権の質入れ、担保権の設定及び相続は認めないものとする。</p> <p>③その他の条件については、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>	
新株予約権の払込金額	払込を要しない	払込を要しない
新株予約権の行使に際して 出資される財産の価値	1個当たり139,600円 (1株当たり1,396円)	1個当たり119,000円 (1株当たり1,190円)
新株予約権の行使期間	平成24年4月2日から 平成28年11月25日まで	平成24年11月15日から 平成31年10月31日まで

- (注) 1. 平成24年4月2日の株式移転により当社の完全子会社となった㈱セルシスが発行した同社第5回新株予約権の新株予約権者に対し、その保有する新株予約権に代わるものとして、当該株式移転に係る株式移転計画に基づき平成24年4月2日に交付したものです。なお、発行決議年月日は、㈱セルシスの同社第5回新株予約権に係るものを表しています。
2. 平成24年4月2日の株式移転により当社の完全子会社となった㈱セルシスが発行した同社第6回新株予約権の新株予約権者に対し、その保有する新株予約権に代わるものとして、当該株式移転に係る株式移転計画に基づき平成24年4月2日に交付したものです。なお、発行決議年月日は、㈱セルシスの同社第6回新株予約権に係るものを表しています。

名 称	第 8 回新株予約権
発 行 決 議 年 月 日	平成18年 3月16日 (注)
保有人数及び新株予約権の数 取締役(社外取締役を除く)	1名 42個
社 外 取 締 役	— —
監 査 役	— —
目的となる株式の種類と数	普通株式4,410株 (新株予約権1個につき105株)
各新株予約権の行使条件	<p>①新株予約権者が死亡した場合は、相続を認めないものとする。</p> <p>②新株予約権発行時において当社又は当社の子会社の取締役又は従業員であった者は、新株予約権行使時においても当社、当社の子会社又は当社の関連会社の役員又は従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職の場合はこの限りではない。</p> <p>③新株予約権発行時において当社の関連会社等の取締役又は従業員であった者は、新株予約権行使時においても当社の関連会社等の役員又は従業員であることを要する。また、当社の関連会社等の取締役又は従業員は、新株予約権の行使に先立ち、当該行使に係る新株予約権の数及び行使時期について、当社取締役会の承認を要するものとする。</p> <p>④新株予約権者は、その割当数の一部又は全部を行使することができる。ただし、各新株予約権の1個未満の行使はできないものとする。</p> <p>⑤その他の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
新株予約権の払込金額	払込を要しない
新株予約権の行使に際して 出資される財産の価値	1個当たり68,775円 (1株当たり655円)
新株予約権の行使期間	平成24年4月2日から 平成28年2月29日まで

(注) 平成24年4月2日の株式移転により当社の完全子会社となった㈱エイチアイが発行した同社第4回新株予約権の新株予約権者に対し、その保有する新株予約権に代わるものとして、当該株式移転に係る株式移転計画に基づき平成24年4月2日に交付したものです。なお、発行決議年月日は、㈱エイチアイの同社第4回新株予約権に係るものを表しています。

2. 当事業年度中に職務執行の対価として当社使用人等に交付した新株予約権の状況
該当事項はありません。
3. その他新株予約権等に関する重要な事項
該当事項はありません。

IV. 会社役員に関する事項

1. 取締役及び監査役の氏名等（平成26年12月31日現在）

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	川 端 一 生	株式会社エイチアイ代表取締役
取締役会長	川 上 陽 介	株式会社セルシス取締役 株式会社クラウド取締役
取 締 役	星 和 彦	株式会社エイチアイ取締役 ガラット株式会社監査役 株式会社クラウド監査役 株式会社エイチアイ関西監査役 株式会社U'eyes Design監査役
取 締 役	伊 藤 賢	株式会社セルシス取締役
取 締 役	青 山 智 信	株式会社エイチアイ取締役 株式会社クラウド取締役
取 締 役	佐々木 竜 生	株式会社セルシス取締役
常 勤 監 査 役	渡 辺 優	株式会社セルシス監査役
監 査 役	大 澤 孝	株式会社エイチアイ監査役
監 査 役	小 高 正 裕	株式会社セルシス監査役 小高正裕公認会計士事務所所長

- (注) 1. 監査役大澤孝及び小高正裕の両氏は、社外監査役であります。
2. 監査役渡辺優氏は、当社グループ12年を含む通算22年にわたり監査役を務めており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
3. 監査役大澤孝氏は、取締役の業務執行の監督において、多数の企業の経営指導を行うなどの経験と高い見識を有するものであります。
4. 監査役小高正裕氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
5. 監査役大澤孝及び監査役小高正裕の両氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として、同取引所に届け出ております。

2. 取締役及び監査役の報酬等の額

区 分	支給人員(名)	報酬額(千円)
取 締 役	6	86,829
監 査 役 (うち社外監査役)	3 (2)	14,040 (7,560)
合 計	9	100,869

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人給分とは含まれておりません。
2. 上記記載の他、社外監査役が当社の子会社から受けた報酬等の総額は840千円（2名）であります。

3. 社外役員に関する事項

①他の法人等の社外役員の重要な兼職状況及び当社と当該他の法人等との関係
ア. 監査役大澤孝氏は、子会社である株式会社エイチアイの監査役であります。
イ. 監査役小高正裕氏は、子会社である株式会社セルシスの監査役であります。
また、小高正裕公認会計士事務所の所長であります。当社及び当社子会社と同事務所との間に特別な関係はありません。

②取締役会及び監査役会への活動状況

区分	氏名	取締役会(13回開催)		監査役会(13回開催)	
		出席回数	出席率	出席回数	出席率
社外監査役	大澤 孝	13回	100%	13回	100%
社外監査役	小高正裕	13回	100%	13回	100%

(注) 書面決議による取締役会の回数は除いております。

・監査役大澤孝氏は、当事業年度に開催された取締役会13回のすべてに出席し、監査役会13回すべてに出席いたしました。これまで培ってきた、多数の企業の経営指導等の経験による見地から、適宜、必要な発言を行っております。

・監査役小高正裕氏は、当事業年度に開催された取締役会13回のすべてに出席し、監査役会13回すべてに出席いたしました。公認会計士としての専門の見地から、適宜、必要な発言を行っております。

③責任限定契約の内容の概要

当社は、社外監査役2名との間で各々、会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しています。当該契約に基づく賠償責任限度額は、いずれの契約においても、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額です。

V. 会計監査人の状況

1. 会計監査人の名称

新日本有限責任監査法人

2. 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

①当事業年度に係る報酬等の額 30,450千円

②当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

30,450千円

(注) 当社と会計監査人の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を区分しておらず、実質的にも区分することができないため、上記の金額にはこれらの合計額を記載しております。

3. 責任限定契約に関する事項

当社と会計監査人は、会社法第427条第1項の規定により、法令に定める要件に該当する場合には損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する限度額の範囲内であります。

4. 非監査業務の内容

該当事項はありません。

5. 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

取締役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある等、その必要性があると判断した場合、監査役会の同意を得たうえで、又は後記の監査役会の請求に基づいて、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の目的とすることといたします。

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある等、その必要があると判断した場合、取締役会に会計監査人の解任又は不再任を株主総会の目的とすることを請求します。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合は、監査役の全員の同意に基づき、監査役会が会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、解任の旨及びその理由を報告いたします。

VI. 会社の体制及び方針

業務の適正を確保するための体制

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(1) 全役職員に法令・定款の遵守を徹底するためコンプライアンス規程、内部者取引管理防止規程、個人情報保護規程等コンプライアンスに係る規程の整備のもと、これを周知徹底させるとともに、全役職員が法令・定款等に違反する行為を発見した場合の報告体制を構築するためコンプライアンス相談窓口規程を整備する。

(2) 内部監査部門は、コンプライアンスの状況を監査し、定期的に代表取締役社長に報告する。

(3) 社会的秩序や健全な企業活動を脅かす反社会的勢力及び団体とは一切の関わりを持たず、不当要求を受けた場合は組織的に毅然とした姿勢で対応する。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報の保存・管理を行うために取締役会規程、文書管理規程その他社内諸規程を整備し、適正に管理する。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

業務の執行にあたり、予め予測可能な損失の危険は、社内規程、規則、マニュアル等の諸規程を整備し未然に防止を図る。

予想し得ない突発的な事態の発生には、当社の代表取締役社長の指揮のもとこれに対応する。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制

事業計画のマネジメントについては、毎年策定される中期事業計画及び年度計画に基づき各業務執行ラインにおいて目標達成のために活動することとする。また、経営目標が当初の計画通りに進捗しているか業績報告を通じ定期的に検査を行う。

業務執行のマネジメントについては、取締役会規程により定められている事項及びその付議基準に該当する事項については、全て取締役会に付議することを遵守し、その際には経営判断の原則に基づき事前に議題に関する十分な資料が全役

員に配布される体制をとるものとする。

日常の職務執行に際しては、職務権限規程、職務分掌規程等に基づき権限の委譲が行われ、各レベルの責任者が意思決定ルールに則り業務を遂行することとする。

5. 当社並びにその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ戦略会議を設置し、経営方針、年度計画、目標数値の進捗状況等の審議並びに報告を通して情報の共有化を図ることとする。

グループ各社の業務の適正を確保するために関係会社権限規程を整備し、グループ各社の業績目標達成状況の把握とともに、リスク管理状況を把握して取締役会に報告することとする。

内部監査部門は、グループ各社の内部統制システムの整備状況の監査に協力し、その監査結果を踏まえ改善を促すものとする。

6. 監査役がその職務の補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合、既存組織と独立した適切な体制を整備する。

担当する使用人の人事考課、異動等については監査役の同意を受けたくて決定することとし、取締役からの独立性を確保する。

7. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役、使用人は監査役の要請に応じ、必要な報告及び情報提供を行う。

8. その他監査役の監査が実効的に行われていることを確保するための体制

監査役監査体制の実効性を向上させるべく、適時見直し・改善を行う。

前述の見直し・改善にあたっては、監査役の意見を十分に尊重する。

9. 財務報告の信頼性を確保するための体制

財務報告の適正性及び信頼性を確保するため、関係法令等に従い内部統制を整備し、その適切な運用・管理にあたる。

連結貸借対照表

(平成26年12月31日現在)

(単位 千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	2,214,755	流動負債	1,241,218
現金及び預金	1,086,746	買掛金	211,822
受取手形及び売掛金	880,145	短期借入金	406,214
製品	13,135	1年内返済予定の長期借入金	151,798
仕掛品	63,502	未払法人税等	23,978
原材料及び貯蔵品	60,899	返品調整引当金	3,149
その他	126,707	賞与引当金	83,656
貸倒引当金	△16,381	その他	360,599
固定資産	1,749,740	固定負債	365,953
有形固定資産	71,552	長期借入金	276,203
建物	40,325	退職給付に係る負債	80,443
工具、器具及び備品	31,227	繰延税金負債	1,275
無形固定資産	1,326,376	その他	8,031
ソフトウェア	917,595	負債合計	1,607,172
ソフトウェア仮勘定のれん	241,832	純資産の部	
その他	134,174	株主資本	2,316,952
投資その他の資産	351,810	資本金	1,003,158
投資有価証券	111,991	資本剰余金	482,285
敷金及び保証金	201,394	利益剰余金	832,467
その他	38,424	自己株式	△958
繰延資産	5,478	その他の包括利益累計額	1,296
創立費	5,478	その他有価証券評価差額金	1,296
		新株予約権	34,142
		少数株主持分	10,410
		純資産合計	2,362,802
資産合計	3,969,974	負債及び純資産合計	3,969,974

(記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。)

連結損益計算書

(平成26年1月1日から
平成26年12月31日まで)

(単位 千円)

科 目	金 額
売上高	3,826,206
売上原価	2,497,855
売上総利益	1,328,351
返品調整引当金戻入額	8,292
返品調整引当金繰入額	3,149
差引売上総利益	1,333,494
販売費及び一般管理費	1,233,780
営業利益	99,713
営業外収益	
受取利息	672
受取配当金	96
持分法による投資利益	10,429
その他	2,579
営業外費用	
支払利息	11,280
為替差損	1,223
その他	7,365
経常利益	93,621
特別利益	
負のれん発生益	13,849
投資有価証券売却益	1,401
新株予約権戻入益	595
その他	40
特別損失	
投資有価証券評価損	27,903
投資有価証券売却損	1,159
減損損失	2,871
税金等調整前当期純利益	77,574
法人税、住民税及び事業税	24,764
法人税等調整額	△7,480
少数株主損益調整前当期純利益	60,291
少数株主利益	332
当期純利益	59,958

(記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。)

連結株主資本等変動計算書

(平成26年1月1日から
平成26年12月31日まで)

(単位 千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
当 期 首 残 高	1,000,320	479,447	773,184	△609	2,252,343
当 期 変 動 額					
新株の発行(新株予約権の行使)	2,837	2,837			5,675
当 期 純 利 益			59,958		59,958
自己株式の取得				△349	△349
持分法の適用範囲の変動			△676		△676
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当 期 変 動 額 合 計	2,837	2,837	59,282	△349	64,608
当 期 末 残 高	1,003,158	482,285	832,467	△958	2,316,952

(単位 千円)

	その他の包括利益累計額		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益累計額合計			
当 期 首 残 高	7,382	7,382	26,486	—	2,286,213
当 期 変 動 額					
新株の発行(新株予約権の行使)					5,675
当 期 純 利 益					59,958
自己株式の取得					△349
持分法の適用範囲の変動					△676
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△6,086	△6,086	7,655	10,410	11,980
当 期 変 動 額 合 計	△6,086	△6,086	7,655	10,410	76,589
当 期 末 残 高	1,296	1,296	34,142	10,410	2,362,802

(記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。)

連結注記表

(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 4社

連結子会社の名称

株式会社セルシス、株式会社エイチアイ、株式会社エイチアイ関西、株式会社U'eyes Design

(2) 非連結子会社の数 1社

非連結子会社の名称

HI CORPORATION America, Inc.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模会社であり、総資産、売上高、純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数 1社

持分法を適用した関連会社の名称

ガラット株式会社

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称

HI CORPORATION America, Inc.

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用会社は、純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結の範囲及び持分法の適用の範囲の変更に関する事項

(1) 連結の範囲の変更

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社エイチアイが、株式会社エイチアイ関西の株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

また、第2四半期連結会計期間において、株式会社エイチアイが、株式会社U'eyes Designの株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

(2) 持分法の適用範囲の変更

当連結会計年度において、株式会社クラウドズの株式について、当社グループが保有する同社株式の一部売却により、持分比率が低下したため、持分法適用範囲から除外しております。

4. 連結子会社の事業年度に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

5. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

子会社株式 : 移動平均法に基づく原価法によっております。

その他有価証券

時価のあるもの : 決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの : 移動平均法による原価法

② デリバティブ : 時価法

③ たな卸資産

製品、原材料及び貯蔵品 : 移動平均法に基づく原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

仕掛品 : 個別法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却方法

① 有形固定資産 (リース資産を除く)

定率法によっております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～15年

工具、器具及び備品 2～20年

② 無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法によっております。なお、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売数量又は見込販売収益に基づく償却額と残存有効期間 (3年以内) に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上する方法を採用しております。自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5年以内) に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年10月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 繰延資産の処理方法

創 立 費：5年間の均等償却

(4) 重要な引当金の計上基準

貸 倒 引 当 金：債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

返品調整引当金：将来発生する見込みの返品による損失に備えるため、過去の返品実績率により計上しております。

賞 与 引 当 金：従業員賞与の支払いに備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

受注損失引当金：受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末において損失が見込まれ、かつその金額を合理的に見積ることが可能なものについては、損失見込額を引当計上しております。なお、当連結会計年度末においては、引当金の計上はありません。

(5) 退職給付に係る負債の計上基準

当社グループの一部において、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェアに係る収益及び費用の計上基準

① 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約
進行基準（契約の進捗率の見積りは原価比例法）

② その他の契約

完成基準

ビューア利用売上の計上基準

ビューア利用売上は、取引先からのビューア利用報告書に基づき売上計上し、決算日において当該報告書が受領できない期間については過去の売上実績に基づき見積計上しております。後日、取引先からのビューア利用報告書の受領により当社計上額と当該報告額との差額につき売上調整しております。

(7) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(8) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法 金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしている場合には、特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象	ヘッジ手段：金利スワップ ヘッジ対象：借入金利息
ヘッジ方針	借入金の金利変動リスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を行っております。
ヘッジ有効性評価の方法	特例処理によっている金利スワップのため、有効性の評価は省略しております。

(9) のれんの償却方法及び期間

原則として5年間の均等償却を行っております。

(10) その他連結計算書類作成のための重要な事項

消費税等の会計処理：消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

6. 表示方法の変更

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において表示しておりました「退職給付引当金」は、「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)の適用に伴い、当連結会計年度より、「退職給付に係る負債」として表示しております。

7. 追加情報

(法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正)

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以降に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成27年1月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%になります。

なお、当該税率変更に伴う影響はありません。

(連結貸借対照表に関する注記)

有形固定資産の減価償却累計額	296,107千円
----------------	-----------

(連結損益計算書に関する注記)

販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費	44,539千円
----------------------	----------

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

- (1) 当連結会計年度末における発行済株式総数は、普通株式6,647,375株であります。
- (2) 剰余金の配当に関する事項
該当事項はありません。
- (3) 当連結会計年度末において、発行している新株予約権の目的となる株式数は、普通株式278,505株であります。

(金融商品に関する注記)

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、長期的な事業投資等の資金の調達については主に銀行からの借入や社債発行により調達を行う方針にしております。短期的な運転資金については、必要があれば銀行借入による調達を行う方針にしております。一時的な余資は安全性の高い定期預金等で運用しております。デリバティブ取引は、リスクを回避することを目的として実施するものであり、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客及び取引先の信用リスクに晒されています。海外取引を行うにあたって生じる外貨建の営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。借入金は主に事業投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、平成35年8月に最終の返済日となります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしておりました。なお、期末日において残高はありません。

当社グループが保有する投資有価証券である株式は、市場リスクに晒されておりますが、そのほとんどが業務上の関係を有する取引先企業の株式であり、未公開企業の株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であります。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

(イ) 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、債権管理規程及び与信管理要領に従い、相手先毎の期日管理及び債権残高管理、与信残高管理を行うとともに、信用状況を把握する体制としています。

(ロ) 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

外貨建の営業債権・債務については、回収・支払期間が3か月以内の短期のものがほとんどであるため、先物為替予約等によるヘッジは行っておりません。

借入金のうち一部については、資金調達に係る金利変動リスクをヘッジするため、金利スワップ取引を行ってまいりました。投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し取引先企業との関係を勘案して保有状況を定期的に見直しております。市場価格のない未公開株式に関しては、四半期毎に当該会社の計算書類を入手する等、経営状態及び純資産価額の把握に努めております。

(ハ) 資金調達に係る流動性リスクの管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき管理部門が適時に資金繰り計画を作成、更新し、流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成26年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（(注2)参照）。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,086,746	1,086,746	—
(2) 受取手形及び売掛金	880,145	880,145	—
(3) 投資有価証券	4,096	4,096	—
資 産 計	1,970,989	1,970,989	—
(1) 短期借入金	406,214	406,214	—
(2) 長期借入金	428,001	422,649	△5,351
負 債 計	834,215	828,863	△5,351

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

元利金の合計額を、同様の新規借入れを行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額107,894千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

（賃貸等不動産に関する注記）

該当事項はありません。

（1株当たり情報に関する注記）

(1) 1株当たり純資産額	348円84銭
(2) 1株当たり当期純利益	9円02銭

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）

企業結合等関係

取得による企業結合

1. 株式会社エイチアイ関西の株式取得

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業名称及び事業の内容

被取得企業名称 株式会社エイチアイ関西

事業の内容 移動体通信関連のソフトウェア開発業務

② 企業結合を行った理由

UI/UX事業における関西地区の事業規模拡大の拠点とするためであります。

③ 企業結合日 平成26年2月28日

④ 企業結合の法的形式 第三者割当増資引受及び株式の取得

⑤ 企業結合後の名称 名称変更はありません

⑥ 取得した議決権比率

株式取得直前に所有していた議決権比率 0.0%

取得後の議決権比率 91.7%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社連結子会社株式会社エイチアイが、現金を対価として株式会社エイチアイ関西の株式を取得したためであります。

(2) 連結計算書類に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年4月1日から平成26年12月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 97,500千円

取得原価 97,500千円

(4) 負ののれんの発生益の金額及び発生原因

① 負ののれんの発生益の金額 13,849千円

② 発生原因

企業結合時の時価純資産額が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として計上しております。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	152,743千円
固定資産	3,936千円
資産合計	156,679千円
流動負債	29,289千円
固定負債	5,961千円
負債合計	35,251千円

(6) 企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に影響を及ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高	53,961千円
営業利益	1,890千円
経常利益	1,262千円
税金等調整前当期純利益	1,175千円
当期純損失(△)	△1,142千円
1株当たり当期純損失(△)	△0.17円

(概算額の算定方法)

当該企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された売上高及び損益情報と当社の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を、影響の概算額としております。なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

2. 株式会社U'eyes Designの株式取得

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業名称及び事業の内容

被取得企業名称 株式会社U'eyes Design

事業の内容

機器・装置・システムの企画、開発、設計、デザイン及びコンサルタント業務

② 企業結合を行った理由

UI/UX事業における、顧客の問題解決、利用品質向上及び「デザインエンジニアリング」の活動推進のためであります。

③ 企業結合日

平成26年4月15日

④企業結合の法的形式 第三者割当増資引受

⑤企業結合後の名称 名称変更はありません

⑥取得した議決権比率

株式取得直前に所有していた議決権比率 0.0%

取得後の議決権比率 60.6%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社連結子会社株式会社エイチアイが、現金を対価として株式会社U'eyes Designの株式を取得したためであります。

(2)連結計算書類に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年7月1日から平成26年12月31日まで

(3)被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 40,000千円

取得原価 40,000千円

(4)発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれん 125,778千円

②発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力から発生したものです。

③償却方法及び償却期間 5年間にわたる均等償却

(5)企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産 132,875千円

固定資産 44,732千円

資産合計 177,608千円

流動負債 81,940千円

固定負債 181,446千円

負債合計 263,386千円

(6)企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に影響を及ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高 225,146千円

営業利益 2,460千円

経常損失(△) △73千円

税金等調整前当期純損失(△) △73千円

当期純損失(△) △358千円

1株当たり当期純損失(△) △0.05円

(概算額の算定方法)

当該企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された売上高

及び損益情報と当社の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を、影響の概算額としております。また、企業結合時に認識されたのれんが当期首に発生したものとして、償却額を算定しております。なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(平成26年12月31日現在)

(単位 千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	140,200	流動負債	43,308
現金及び預金	102,571	未払金	23,056
売掛金	36,547	賞与引当金	1,495
前払費用	1,058	未払法人税等	4,499
その他	23	未払消費税等	10,240
固定資産	2,302,803	その他	4,016
有形固定資産	35		
工具、器具及び備品	35		
無形固定資産	589	負債合計	43,308
商標権	589	純資産の部	
投資その他の資産	2,302,178	株主資本	2,371,032
関係会社株式	2,302,178	資本金	1,003,158
繰延資産	5,478	資本剰余金	1,248,042
創立費	5,478	資本準備金	253,158
		その他資本剰余金	994,884
		利益剰余金	120,789
		その他利益剰余金	120,789
		繰越利益剰余金	120,789
		自己株式	△958
		新株予約権	34,142
		純資産合計	2,405,174
資産合計	2,448,483	負債及び純資産合計	2,448,483

(記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。)

損 益 計 算 書

(平成26年1月1日から
平成26年12月31日まで)

(単位 千円)

科 目	金 額	額
売 上 高		406,080
売 上 原 価		—
売 上 総 利 益		406,080
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		349,472
営 業 利 益		56,607
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	19	
受 取 手 数 料	15	
そ の 他	35	70
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	616	
創 立 費 償 却	2,435	
そ の 他	72	3,124
経 常 利 益		53,553
特 別 利 益		
新 株 予 約 権 戻 入 益	595	595
税 引 前 当 期 純 利 益		54,149
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	5,823	
法 人 税 等 調 整 額	—	5,823
当 期 純 利 益		48,325

(記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。)

株主資本等変動計算書

(平成26年1月1日から
平成26年12月31日まで)

(単位 千円)

	株 主 資 本					
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当 期 首 残 高	1,000,320	250,320	994,884	1,245,204	72,464	72,464
当 期 変 動 額						
新株の発行(新株予約権の行使)	2,837	2,837		2,837		
当 期 純 利 益					48,325	48,325
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						
当 期 変 動 額 合 計	2,837	2,837	—	2,837	48,325	48,325
当 期 末 残 高	1,003,158	253,158	994,884	1,248,042	120,789	120,789

(単位 千円)

	株 主 資 本		新株予約権	純 資 産 合 計
	自己株式	株主資本合計		
当 期 首 残 高	△609	2,317,380	26,486	2,343,867
当 期 変 動 額				
新株の発行(新株予約権の行使)		5,675		5,675
当 期 純 利 益		48,325		48,325
自己株式の取得	△349	△349		△349
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			7,655	7,655
当 期 変 動 額 合 計	△349	53,651	7,655	61,307
当 期 末 残 高	△958	2,371,032	34,142	2,405,174

(記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。)

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
子会社株式
移動平均法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却方法
有形固定資産：定率法
- (3) 繰延資産の処理方法
創立費：5年間の均等償却
- (4) 引当金の計上基準
賞与引当金：従業員賞与の支払いに備えるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表に関する注記)

- | | |
|--------------------|----------|
| (1) 有形固定資産の減価償却累計額 | 390千円 |
| (2) 関係会社に対する債権債務 | |
| 短期金銭債権 | 36,570千円 |
| 短期金銭債務 | 25,168千円 |

(損益計算書に関する注記)

- | | |
|--------------------------|-----------|
| (1) 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費 | — 千円 |
| (2) 関係会社との取引 | |
| 営業取引による取引高 | |
| 売上高 | 406,080千円 |
| 営業取引以外による取引高 | 616千円 |

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数は、普通株式1,885株であります。

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産の発生の主な原因

流動資産

繰延税金資産

未払事業税

694千円

その他

909千円

繰延税金資産小計

1,604千円

評価性引当額

△1,604千円

繰延税金資産合計

— 千円

固定資産

繰延税金資産

繰越欠損金

450,677千円

繰延税金資産小計

450,677千円

評価性引当額

△450,677千円

繰延税金資産合計

— 千円

(関連当事者取引に関する注記)

子会社等

属性	会社名	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	㈱セルシス	所有100%	経営管理 役員の兼任	経営指導料の受取	203,040	売掛金	18,273
				出向者給与の支払	110,224	未払金	12,769
子会社	㈱エイチアイ	所有100%	経営管理 役員の兼任	利息の支払	616	—	—
				資金の返済	70,810	—	—
				経営指導料の受取	203,040	売掛金	18,273
				出向者給与の支払	130,870	未払金	9,697

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案し、交渉・協議の上で決定しております。

(注2) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(1株当たり情報に関する注記)

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 356円78銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 7円27銭 |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告

独立監査人の監査報告書

平成27年2月20日

アートスパークホールディングス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 小野 淳 史 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 石井 広 幸 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、アートスパークホールディングス株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アートスパークホールディングス株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

計算書類に係る会計監査人の監査報告

独立監査人の監査報告書

平成27年2月20日

アートスパークホールディングス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 小野 淳 史 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 石井 広 幸 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、アートスパークホールディングス株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの第3期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会の監査報告

監査報告書

当監査役会は、平成26年1月1日から平成26年12月31日までの第3期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受け、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成27年2月27日

アートスパークホールディングス株式会社 監査役会

常勤監査役	渡 辺	優	㊟
社外監査役	大 澤	孝	㊟
社外監査役	小 高	正 裕	㊟

以 上

株主総会会場ご案内図

会場：東京都新宿区西新宿一丁目9番1号

明治安田生命新宿ビルB1F 新宿明治安田生命ホール

